

NEWS LETTER

Contents

- ・小村国際塾の子どもたち上京・教養講座開催報告・墓前祭報告
- ・2019年活動計画・私の小村侯・小村侯のフロックコート
- ・2019年総会・懇親会のお知らせ・寄贈図書の紹介

2019年
春季号
VOL.9

小村国際塾の子どもたち 10 名、12 月 15 日に上京！

めざせ小村寿太郎国際塾の児童 10 人がお墓清掃参拝

郷里日南市が国際社会へ羽ばたく人材を育成するために設立した「めざせ小村寿太郎国際塾」の児童 10 名が昨年 12 月 15 日（土）、港区の青山霊園を訪れるのを我々小村寿太郎侯東京奉賛会の有志 11 名で迎えた。

当初、8 月 22 日（水）に計画されたが、台風 20 号のため延期されていた。この県外研修が夏に行われていた頃は、蚊取り線香を数か所に用意しても追いつかなかったことを想えば、変更されて却って今回のこの季節はよかったのかもしれない。しかも当日は冬とはいえ幸いにも好天に恵まれ、清掃作業ははかどっていたが、意外にも予定より 30 分も早く姿が現れた。ならばということで、子どもたちにも草むしり等に加わってもらい、あっという間に片付いた。

お墓の前に皆揃って、清々しい気持ちで参拝し、児童に向かって、私は A3 の用紙に「誠」の 1 文字を大書したペーパーをかざしながらこのように挨拶した。「小村先生は、皆さんご存知のように、生涯「誠」を貫いた方です。難しい交渉事でも誠意をもって当たれば必ず相手に通じるものである、ということを伝えたかったのです。」また、さらに、「秋にノーベル医学生理学賞を受賞された本庶佑博士は、「有志成竟（ゆうしせいきょう）」という言葉を座右の銘としておられる。思いに向かって努力すれば必ず達成できる、という意味です。皆さんは英語を熱心に勉強されているようですが、“Where there’s a will, there’s a way.” と同じ意味です。皆さん、頑張ってください！」

小村寿太郎侯東京奉賛会 会長 下笠 直樹（しもおろ なおき）

今日は、お忙しい中、私たちのために時間をつくっていただき、ありがとうございました。

この研修に向けて、私たちは小村寿太郎侯について学習してきました。そして、小村寿太郎侯東京奉賛会の方々が青山墓地にある小村侯のお墓を守ってくださっていることも聞いていました。

実際に小村侯の墓前に手を合わせた今、私は小村寿太郎侯に近付けた気がします。日南の偉人に会えてうれしい気持ちでいっぱいです。小村侯が学生に送った言葉「諸君は正直であれ。正直ということは何よりも大切である。」を胸に刻み、これからも国際塾や学校の授業など、いろいろなことにがんばって挑戦していこうと思います。

今日は、一緒に小村侯のお墓参りができてうれしかったです。ありがとうございました。

吾田小学校 6 年 大久保 凜（おおくぼ りん）



【講演会開催のご報告】

2018年9月8日(土)14時より、JPビルにて、宮崎産業経営大学法学部教授 甲斐睦教氏を招き「日英同盟と小村寿太郎侯」についての講演をして頂きました。



特に今回は、イギリスとの間における「日英同盟」の条約締結をなさざるを得なかった時代背景とともに、明治政府は近代国家として歩んでいくために幕末の不平等条約を撤廃し、真の独立国家とする事が、喫緊の課題であった事や、その様な激動の時代に、近代国家に変遷する姿を諸外国、特に欧米列強に認めさせた「日英同盟」に、小村の外交官としての卓越したところを論じてもらいました。

参加者は42名で90分の講義、質疑応答の後に先生を囲んでの交流会では、イギリスに昨年留学されていた時の身近な話が聞けて、参加者に質問責めで、和気あいの教養講座でした。

【墓前祭のご報告】

小村寿太郎侯は、明治44年(1911年)11月26日早朝、56歳で波乱に満ちた生涯を葉山(神奈川県)にある別荘で終えました。

当会では11月の清掃墓参については、従来の最終日曜日に実施しておりましたが、昨年より命日の11月26日に行うことになりました。

当日は11時半に集まり、清掃を18名で行い、参拝後、市ヶ谷の宮崎県東京ビルにて会食を行い、今後の墓前祭のありようを話し合い4時に散会となりました。



【2019年度 活動予定】

7月13日 基本セミナー 講師 長友 禎治氏
9月 親睦会 長瀬敬策
11月26日 墓前祭(セミナー講師未定)
11月30日 講演会 講師 中西 輝政氏

【2019年 青山墓地 清掃・参拝活動】

墓掃除日程 (12時というや集合)
3月31日(日) 5月26日(日)
7月28日(日) 9月29日(日)
11月26日(火)(墓前祭当日)

明治を駆け抜けた「誠」の外交官・小村寿太郎

東京奉賛会会員(飢肥出身)

私が尊敬し、誇りとする郷里の大先輩、外交官・小村寿太郎。

小村さんは、幼少のころから勉学に励み、緩みなく、それを積み上げ、人間としての活躍の基礎を創り、ただ一筋に国家のために貢献された方だと思います。

56歳の若さで、明治の時代を駆け抜けられた信念の人でもあります。

しかも財をなすこともなく、ひたすら国を愛し、国家に尽くし、短い生涯を終えられた人です。

その外交官時代は、欧米、ロシアの帝国主義に基づく植民地政策の最中であって、アジアが最後の植民地としてそれら列強国に侵略、統治されるという、まさに混沌とした時代でした。

小村さんは、日本の採るべき進路は如何にあるべきかと、悩まれたことは知る由もありません。しかしながら、小村さんは、自分の考え方の基本は、常に「誠」という言葉に、集約されるだろうということを自叙伝でも述べられています。小村さん曰く「私に誇るべきものがあるとしたら、それは「誠」という言葉であり、常に誠をもって押し通せば、大した知恵も使わずに済む。つまるところ、学問や同胞との付き合いも、また将来のことを考える場合でも、私はこの「誠」の心を忘れずに貫く覚悟でいるのだ。」と信念のほどを述べています。

小村さんは、このような精神信条を心構えに持ち、加えて抜群の英語力とハーバード大で習得した法律的思考で、日英同盟、ポーツマス日露講和会議、不平等条約改正等、特筆すべき業績を挙げた明治外交官と言えるでしょう。

この信条ともいえる「誠」の外交は、あの有名なポーツマス講和会議の場でも如何なく発揮されておりま。

ポーツマスの交渉の場はまさに、大国ロシアを相手に駆け引きの続く場でありました。交渉の過程でロシア代表のウイッテは、アメリカの新聞や通信を買収まがい世論の操作を盛んに行いましたが、小村さんは「私は、新聞の操作などやりたくない。」と随員に語ったと言われています。自分の性格や信条としてもやりたくなかったのでしょうか。これこそ外交は誠実以外にないという、彼自身の「誠」の実践例ではないでしょうか。

又講話成立後、小村さんは、この講和会議でお世話になったニューハンプシャー州に対して「ジャパニーズ・チャリタブル・ファンド」いう基金をロシアに先駆けて寄付したい旨、申し出たという。これこそまさに誠実外交の実践ではないでしょうか。

さらに、1905年ポーツマス条約締結後に、宮崎県宮崎中学校(現宮崎県立宮崎大宮高等学校)で、帰国後の講演を行った際、学生を相手に「諸君は正直であれ!正直“ということは何よりも大切である。」と、ただ短い言葉で、自分の信条を語ったといわれています。

日本における世論形成のまずさもあり、小村さんのポーツマスにおける誠実外交は、「戦争終結」という形で成果を収めたにも拘わらず、帰国後、国民の暖かい支持が得られなかったことは誠に残念であります。

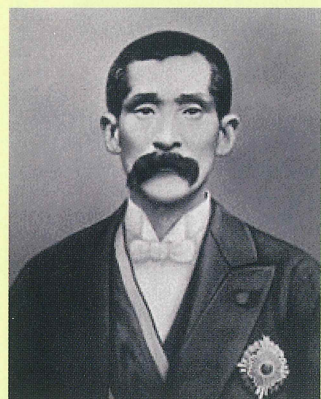
しかしながら、我々郷土の人々は彼の高潔、誠実な外交官としての実績を誇りに思っております。

若い方々に、ぜひとも外交官・小村寿太郎に関心を寄せていただき、ともに勉強していきたいものです。

小村寿太郎侯のフロックコート

東京奉賛会会員 4 年目 吉田 千草

アメリカ独立宣言から 242 年、老舗のブルックス ブラザーズ創立 200 年を記念して展示会が新宿駅近くの文化学園服飾博物館で開催されていて、そのフロックコートが宮崎県総合博物館から借りて展示されているとのことと 11 月 7 日行って来ました。それは、一番奥にあってガラス張りはただ一つで、唯一、手が触れられないようにしてありました。113 年前の品とは思えない、立派なものです。ベストの裏側に縫い付けられた小さなラベルに Brooks Brothers (会社名) Broadway, NEW YORK 1905 年 7 月 25 日 Mr. J. Komura と書いてあります。



(1855年～1911年)

小村さんが Brooks Brothers で作ったという唯一の証拠です。そして、その洋服の名前はフロックコートと初めて知りました。後日、同級生に聞くとフロックコートを知っている人はいなかったのが、安心しました。

フロックコートの左隣に、文化学園服飾博物館が書かれた下記の説明文がありました。

【1905 年 8 月、アメリカ・ポーツマスにおいて日露戦争終結に向けた日露講和会議に小村寿太郎は日本全権大使として臨み、9 月 4 日、日露講和条約（ポーツマス条約）を調印し、戦争が終わりました。小村一行は講和会議が始まる 8 月に向け日本を出発し、ポーツマスに向かうことになりましたが、当時 50 歳になる直前の小村は身長 156cm で、対するロシア全権代表のセルゲイ・ウィッテは、身長 180cm を超す大男でした。小柄な小村は困難な交渉に向け、歴代の多くのアメリカ合衆国大統領に選ばれて来た老舗、BROOKS BROTHERS 社製のフロックコート（正装）を着装し、講和会議に臨むため、現地で フロックコートを調達したものと考えられ、ニューヨーク本社にその販売記録が残っています。】

小村さんは、ハーバード大学 法律学部卒業後に New York で弁護士の勉強を 2 年間されたから、ブルックス ブラザーズをご存知だったのでしょうか。ちなみに小村寿太郎はフロックコートを 13 着持っていました。

小村さんのフロックコート展示場所は灯りが薄く、写真を撮るとその前に展示してある物が映って、上手に撮れません。すると、金丸事務局長が宮崎県総合博物館と文化学園服飾博物館に許可を取ってくださり、12 月 3 日(月)、9 時にガラス張り解体後、綺麗な写真を撮ることができました。その時に同博物館の佐藤正明副館長が、「フロックコートを搬送することはできないので、自分ともう一人の二人で、宮崎県総合博物館へ取りに行きました。

宮崎～東京間の飛行機の座席は三人分を取り、フロックコートが一人分の座席を占めました。二人で行くのは例えば、トイレなど一人が場を離れる時の用心などの安全管理のためです。フロックコートは、冬に着るコートではなく、昼間の正装です。」と説明してくださいました。

フロックコートは 19 世紀から 20 世紀初頭にかけて使用され、ダブルブレストで黒色のものが正式とされ、フロックコート、シャツ、ベスト、ネクタイで一揃いになりました。その後はモーニングコートに取って代わられ、現在では前合わせがシングルのものも多く見られるようになり、結婚式で使われるくらいです。

歴代の大統領 45 人のうち、ブルックス ブラザーズのフロックコートを着なかったのは、僥倖家で有名だったジミー・カーター、元映画俳優で専属のテイラーを雇っていたロナルド・レーガン等の計 5 人でした。オバマさんもトランプさんも着用しています。エイブラハム・リンカーンが暗殺されたときに着ていたのもブルックス ブラザーズで誂えたものでした。

展示物は日本の小村さんのフロックコート以外は全てアメリカから持って来た品でした。ブルックス ブラザーズの 200 年間の品物が勢揃いし、映画の最新版の華麗なるギャツビーの映像が流れ、村上春樹さんのコメントが畳三畳の壁に紺色の布の上に日本語と英語で書かれていました。全てが飽きの来ない演出で、素晴らしい品ばかりでした。

Brooks Brothers は、1818 年ヘンリー・サンズ・ブルックスによってニューヨークで H.&D.H.Brooks & Co. として創業された世界最古の紳士服販売店です。現在では紳士服に限らず婦人服や子供服なども手掛けています。ボタンダウンシャツは、アイビールックの定番として有名です。

文化学園は 1923 年に創設され、現在では文化学園大学・文化服装学院などで、日本の服飾教育の中心を担いファッション界に多くの人材を送り出しています。博物館は 1979 年に開館され、優れた実物資料による教育・研究を目指し生活に欠かせない「衣」をテーマに皆様のお役に立てることを願っているとのこととです。

今回の展示物と説明文は、私が初めて見るもの、初めて知ることばかりでした。



(写真中央：吉田 千草)

2019 年度 総会・懇親会のお知らせ

開催日時：5月25日(土) 13時～

会 場：ジャパンプロテクション株式会社 会議室
東京都千代田区二番町 5-7 Tel. 03-3265-6861
有楽町線 麹町駅 5 番出口徒歩 1 分

会 費：3,000 円

講 演：『外交官 小村寿太郎の魅力』
冨塚 一彦 氏 (外務省外交史料館 外交公文書編纂官)

ゲ ス ト：深川 保典 氏 (日南市出身の JAZZ シンガー)



(深川 保典 氏)

寄贈図書を紹介

「本多熊太郎関係文書」に纏わること

会 長 下 笠 直 樹

本多熊太郎のことは、小村寿太郎侯東京奉賛会の会員といえども、知る人はそう多くはないと思われる。小村外務大臣の秘書官を務めた外交官である。

ある日、本多熊太郎の曾孫が私の学友の奥様であることが突然判明した。六和会(むつわかい:1960 年入学)と称するクラス会は毎年年末に開催され、一昨年の近況報告の中で小村寿太郎侯東京奉賛会について簡明に紹介したところ、懇談の席で裁判官OBの友人が、実は、と話しかけてくれたのである。

さらに、彼は六和会ゴルフ部会の万年幹事を務める実に誠実な男であるが、昨秋のコンペの折、「本多熊太郎関係文書」が出版され、良かったら寄贈するよ、とにこにこしながら申し出て来た。即座に、ありがたい、会の蔵書とさせて貰いたい、とご厚意を拝受することにした次第である。

まだある。本書中に「本多熊太郎関係文書目録(北垣由民子氏所蔵)」とあるが、まさに京都市にお住いの北垣由民子氏こそ本多熊太郎の直系のお孫様であって、私の友人は氏の従妹の夫なのである。従来、日南市小村寿太郎記念館に本多熊太郎の帽子、勲章をはじめ関連の品々を寄贈されており、この度は「本多熊太郎関係文書」も寄贈して頂いている所縁の方である。

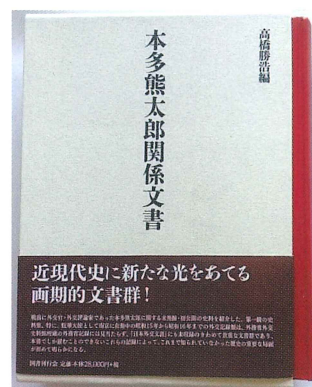
さて、本多熊太郎(明治7(1874)年～昭和23年)は、和歌山県那賀郡出身で、明治・大正・昭和の外交官、太平洋戦争時の中華民国大使、東條内閣の外交顧問。戦後はA級戦犯として逮捕された。

小村との関係では、明治34年外相就任時には秘書官となり、明治38年日露講和条約の小村全権委員に随行し、明治41年小村外相再度の就任の際にもまた秘書官として呼び込まれている。

ところで、本多熊太郎関係文書(高橋勝浩編・国書刊行会)は、800頁超の大変高価で貴重な書物であるが、分厚い赤表紙を開くと冒頭に16葉の写真が掲載されていて、目次は、手記、書翰、電報、外交記録類、解題、年譜、本多熊太郎関係文書目録(北垣由民子氏所蔵)、本多熊太郎著述目録から成る。

箱入り装丁本の箱に付いている帯には「近現代史に新たな光をあてる画期的な文書群」という見出しに続いて、「戦前外交官・外交評論家であった本多熊太郎に関する未発掘・初公開の史料を紹介した、第一級の史料集。特に、中華大使として南京に在勤中の昭和15年から昭和16年までの外交記録類は、外務省外交史料館所蔵の外務省記録には見当たらず、「日本外交文書」にも未収録のきわめて貴重な文書群であり、本書でしか読むことのできないこれらの記録によって、これまで知られていなかった歴史の重要な局面が初めてあきらかになる。」とある。

結びに、目次の冒頭の「手記」中の一節を記しておくこととする。「東京に帰って間もなく政変があって小村侯は閑地に就かれた。これより先日露戦争終了直後、該戦争に関する小村侯の備忘録を一つ執筆するやうにといふ依頼があったが、今日までその時機を得なかった。丁度三十四年の暮れには熱海にでも二人で行って筆を執ってくれといふことであったが、同年十二月六日(十一月二十六日)、小村侯は積年の激務に持病の肺患が高じて、遂に白玉楼中の人となった。」



小村寿太郎侯東京奉賛会

〒130-0026 東京都墨田区両国 1-14-10-801 電話 03-3846-9030 FAX 03-6659-3084

E-mail:kanemaru.hiroshi@orchid.plala.or.jp 振込先：ゆうちょ銀行 店番 008 普通預金口座 1191854 名義 小村寿太郎侯東京奉賛会